

岡山県の地震

令和3年(2021年)3月

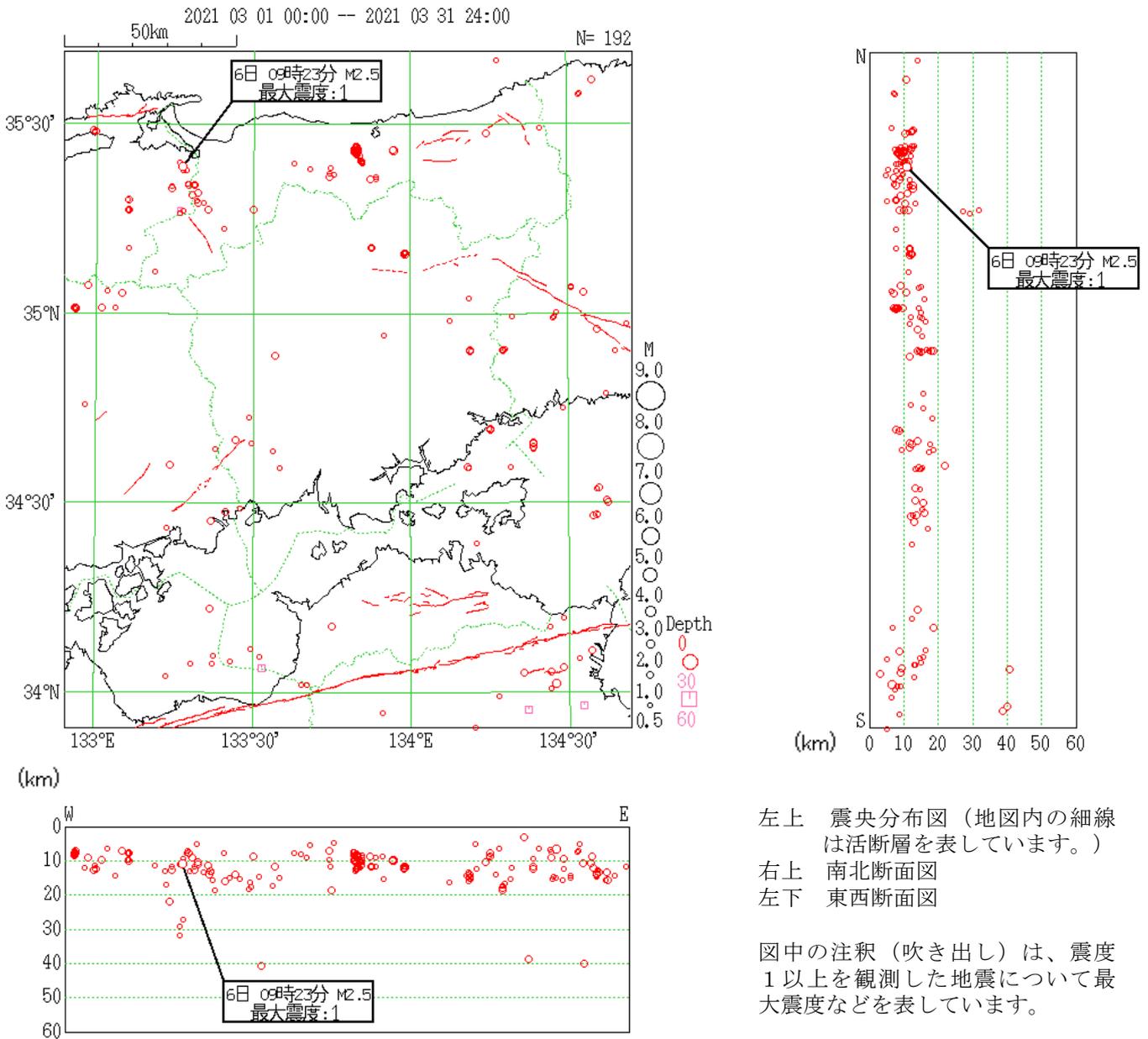
目 次

○岡山県及びその周辺の地震活動（3月）	
震央分布図及び断面図	… 1
概 況	… 1
岡山県において震度1以上を観測した地震の表	… 2
岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図	… 2
○地震防災メモ No.183	
推計震度について	… 3

- 「岡山県の地震」は、月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」により地震、津波に対する防災知識の普及等に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。
- この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

岡山県及びその周辺の地震活動(3月)

震央分布図及び断面図



左上 震央分布図（地図内の細線は活断層を表しています。）
右上 南北断面図
左下 東西断面図

図中の注釈（吹き出し）は、震度1以上を観測した地震について最大震度などを表しています。

概況

3月の概況

- ・上図の範囲内で3月に震度1以上の揺れが観測された地震は1回（前月：3回）でした。
- ・岡山県で震度1以上の揺れが観測された地震は3月中に1回（前月：2回）あり、そのうち震央が上図の範囲内での地震は0回、範囲外での地震は1回でした。

岡山県における震度1以上を観測した地震の表(3月)

2021年03月15日00時25分 和歌山県北部 34° 01.7' N 135° 14.8' E 4km M4.6

----- 地点震度 -----

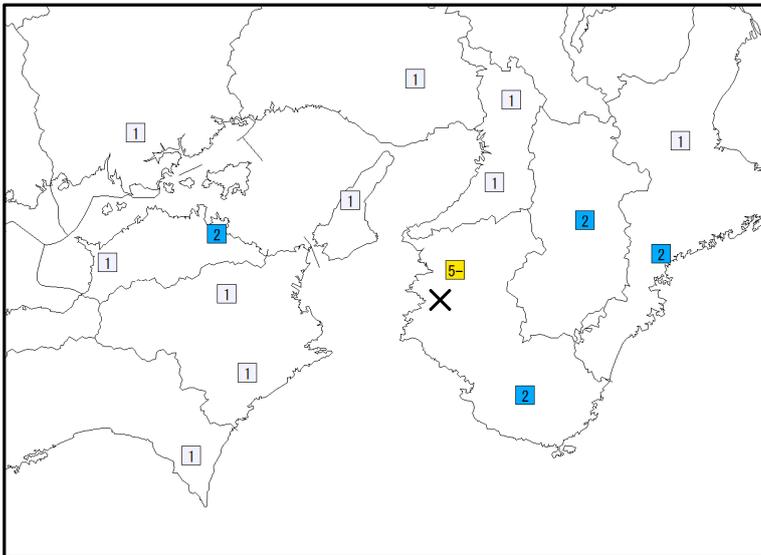
岡山県 震度 1: 倉敷市児島小川町*, 倉敷市玉島阿賀崎*, 倉敷市船穂町*, 玉野市宇野*
 早島町前潟*, 瀬戸内市邑久町*, 瀬戸内市長船町*, 赤磐市上市, 浅口市金光町*
 岡山北区大供*, 岡山中区浜*, 岡山東区西大寺南*, 岡山南区片岡*
 岡山南区浦安南町*

- 注) 1 内容は暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。
 なお、地震データの確定値は『気象庁地震・火山月報(カタログ編)』に掲載されます。
 2 地名の後に*印を付したものは、岡山県又は防災科学技術研究所の震度観測点です。
 なお、震度は気象庁震度階級表によるものです。

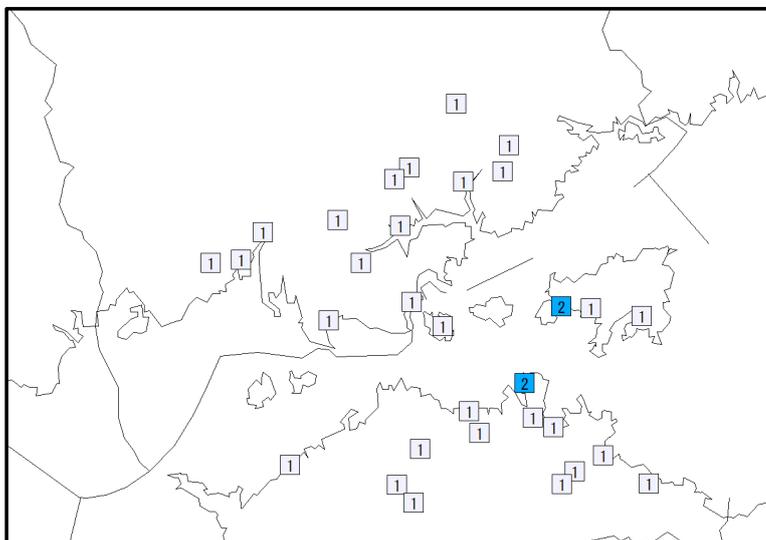
岡山県における震度1以上を観測した地震の震度分布図(3月)

2021年03月15日00時25分 和歌山県北部の地震

各地域の震度分布



岡山県及び周辺観測点の震度分布



×は震央

凡例	
7	震度7
6+	震度6強
6-	震度6弱
5+	震度5強
5-	震度5弱
4	震度4
3	震度3
2	震度2
1	震度1

推計震度について

「平成7年(1995年)兵庫県南部地震」を契機に、全国で計測震度計の設置が進み、順次、気象庁の地震情報へも取り込まれ、防災体制の立ち上がり情報として活用されるようになりました。

観測された震度について、地震発生からの経過時間に応じて「震度速報」、「震源・震度に関する情報」、「各地の震度に関する情報」など、詳細な震度情報が提供されます(詳しくは、地震防災メモ No.182を参照下さい)。防災対応を検討する際、点としての震度情報ではなく、強い揺れにみまわれた地域の面的震度分布を知りたい場合があります。そのための資料が「推計震度分布図」です。

地表の地盤特性の違いにより、隣り合う場所であっても揺れ方がかなり違うことがあります。そのため、各震度観測点で観測された震度を、地盤の影響を大きく受けないと考えられる、地下のある深さにある「工学的基盤」の揺れに変換します(地表での揺れを地盤増幅度※で割ります)。次に、工学的基盤上での揺れの等値線分布を描き、震度計のないところも1km四方の格子間隔で基盤上の揺れの強さを計算します。そして、各格子における基盤上の揺れに、その格子の地盤増幅度を掛けて(地表面の震度に変換して)、地表面での面的震度分布図を作成します。

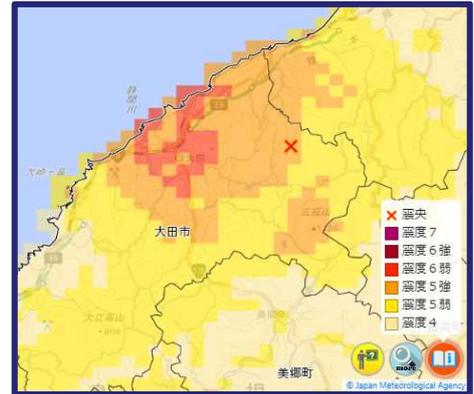


図1 2018年4月 島根県西部の地震

震央「×」の西側に、強い揺れの領域が推定されている。

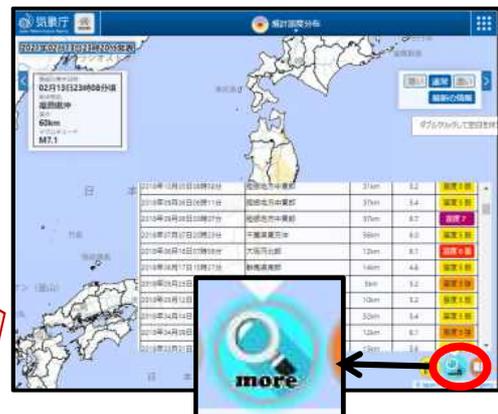
原則として全国で震度5弱以上を観測した地震について提供します。図を活用する場合、以下の点に留意して、活用願います。

- ①大きな震度の面的な拡がり具合やその形状に着目することが重要です。また、推計された震度の値は、場合によって1階級程度異なることがあります。
- ②図1のように震央を示す「×」の場所が地上での一番大きな揺れと一致していないこともよくあります。どの地域が大きな揺れになったかを把握する際には、「×」の位置にこだわることなく推計震度分布図をご活用ください。

※地盤増幅度:「工学的基盤」に比べて、地表面での揺れがどの程度大きくなるか(小さくなるか)を示す値。

推計震度分布図は、地震後20分程度で気象庁ホームページから提供します。

トップページ <https://www.jma.go.jp/>



最新の地震が表示される。右下「more」ボタンで過去の地震が選択できる。